

サラール語の疑問標識 mi に関する考察

原 明海

(東京外国語大学 博士前期課程)

要旨

本研究は、サラール語¹ (チュルク諸語, オグズ語群) の極性疑問文末尾に現れる mi の用法を、主に映画資料で収集したデータを用いて考察した。mi は「話し手または聞き手が想定していたことが事実と反するとき、事実となる命題に付け加えることにより、『想定外』を示す」ことを主張する。

なお、『想定外』とは、次の定義を満たすものとする。mi を除いた叙述部の命題を P, その否定を¬P としたとき、実際の状況が P であり、話し手または聞き手の想定が¬P である。

0. はじめに

サラール語は、6つの疑問標識 (mu, mo, mi, (r)u, (r)o, (r)i) を持つ (原 (2019: 51))。これらは互いに異形態の関係ではなく、独立した形であることがわかっている。しかし、それぞれのはたらきに関する記述は十分ではない。

mi のはたらきに関する記述は、(r)u, (r)i とともに「話し手はその質問内容に関して、一部の情報を持っているが、完全に断定できないため、聞き手に確認を取るための疑問を表す (马伟 (2013: 230))」のみである。本発表では、映画資料とエリシテーション調査から集めた例を用いて、mi が『想定外』のはたらきをもち、他の疑問標識と区別されることを明らかにする。

本発表の構成は次の通りである。第1節で背景知識を概観し、第2節でデータの分析方法と分析の枠組みを、第3節で映画資料とエリシテーション調査による調査結果を提示する。そして第4節で考察、第5節で今後の課題について述べる。なお、特にことわりのない限り外国語文献の和訳、例文・図表番号、文字表記、グロス等は発表者による。

1. 背景知識

1.1. 先行研究

疑問標識の形について、原 (2019: 51) は先行研究を踏まえた上で、次の6種類に分類している: mi, mu, mo, (r)u, (r)o, (r)i。本研究で指す疑問標識とは、この6種類を対象とする。

¹ 本発表では、马伟 (2013) で使用されている以下の表記体系を用いる。

a = [a, ɑ], o = [o, ɔ], e = [ɛ, e, æ, ɤ], i = [i], u = [u, ʊ, ʊ], ü = [y, ʏ, u], ö = [ø, œ, o], ĩ = [ĩ, ɐ, ɪ, ɨ], b = [p], p = [ph], m = [m], f = [f], d = [t], t = [th], n = [n, ɳ], l = [l], g = [k], k = [kh], q = [q, qh], ġ = [ɣ, ʁ], x = [x, χ, ç], h = [h], j = [ʝ], ċ = [çh], š = [ʃ], zh = [tʃ], ch = [tʃh], sh = [ʃ], r = [r, ɾ, ʀ], z = [z], s = [s], y = [j, j̣], ng = [ŋ], v = [v, w].

これらの標識の用法について、马伟 (2013: 230-231) は次のように述べている。mu, mo, (r)o は、「疑問が生じたため質問する」というはたらきであるのに対し、mi, (r)u, (r)i は「話し手が一部の事実をすでに知っているものの確証が持てないため、相手に確認を取る」はたらきを持つ。

马伟 (2013) の記述は、個々の疑問標識の用法が区別されていないのと、それらのはたらきを裏付ける有効な具体例を挙げていない点で、十分な記述であるといえない。そのため、資料を用いて個々の疑問標識のはたらきを考察する必要がある。

1.2. 疑問標識 mi の傾向

马伟 (2013) は疑問標識の用法を「疑問があるから質問する」ものと「話し手が一部の事実を既に知っている」ものに分類している。前者が意図するところは不明だが、少なくとも、前者の疑問標識と後者に分類される疑問標識 mi, (r)u, (r)i の間には、話し手がその疑問に関して把握している事柄の程度またはその性質のちがいが存在すると考えた。

その中でも、発表者の観察によれば、サラール語母語話者が mi を用いる際に、聞き手に答えを要求していない傾向と、驚きのような意味合いを伴う傾向にあることがわかった。したがって、話し手がその疑問について把握している事柄と実際の状況が互いに反する際に用いる可能性があると考えた。

以上により、本研究では mi のはたらきを明らかにするために、〈実際の状況〉と〈話し手の想定〉の相関を調べることが有効であると判断した。

2. 分析方法

2.1. 調査資料

調査資料として、中国で製作された漢語の映画『北京爱情故事 (北京ラブストーリー)』と『无人区 (無人地帯)』をサラール語母語話者が自主的に全編サラール語で吹き替えしたものをを用いる。映画にはあらかじめ漢語と英語の字幕が付されている。

資料 1 と資料 2 から mi を含む極性疑問文をすべて抜き出した結果 11 例となった。

映画資料の詳細情報は以下の通りである。

資料 1: 《北京爱情故事》(「北京ラブストーリー」)

映画監督: 陈思成, 公開年: 2014 年, 作品時間: 57:40

資料 2: 《无人区》(「無人地帯」)

映画監督: 宁浩, 公開年: 2013 年, 作品時間: 1'56:54

なお、資料 1 と資料 2 とともにサラール語版の制作を手掛けた団体は、青海学忠影视文化传媒有限公司 (青海省学忠映像文化メディア株式会社) である。

2.2. 分析の枠組み

疑問文における『想定外』を次のように定義する。

極性疑問文から *mi* を除いた叙述部の命題内容を *P*、その否定を $\neg P$ としたとき、その例文が発話された〈実際の状況〉と〈話し手が想定している状況〉がそれぞれ命題内容と一致するか異なるかを分類する。命題内容に一致するものは *P*、その否定に一致するものは $\neg P$ とする。

調査資料で収集した 11 例を同様に分析し、11 例中 11 例ともこの基準を満たす結果となることを示す。

最後に、『想定外』の用法が *mi* のみに現れることを検証するために、他の疑問標識と置き換えた疑問文を用いて、エリシテーション調査を行った。

3. データの分析

本章は、3.1 節で映画資料から収集した用例のうち 5 例の分析を提示し、3.2 節で映画資料から収集した 11 例全体の分析結果を整理する。3.3 節で、エリシテーション調査により得られた結果 2 例とその考察を述べる。

3.1. 調査資料による例文の分析

- (1) gör-mor mi sen?
見る-NEG.PRS mi 2SG
「あなたは見ていないのか？」

(資料 1 より)

(1) は、勢いだけで結婚をしようとしている友人を話し手が停める場面である。実際起きている状況としては「聞き手が (結婚生活に失敗した話し手の現状を) 見ていない」かのようであるが、話し手と聞き手は頻繁に会う友人であるため、話し手は「聞き手が (話し手の現状を) 見ている」はずだと想定している。

| | | |
|--------|----------------------------|----------|
| 命題 | 聞き手 (あなた) は見ていない | |
| 実際の状況 | 聞き手 (あなた) は見ていない (かのような状況) | <i>P</i> |
| 話し手の想定 | 聞き手 (あなた) は見ている | $\neg P$ |

- (2) se bil-mez mi sen?
2SG 知る-NEG.PRS mi 2SG
「あなたは知らないのか？」

(資料 2 より)

(2) は、明らかに自分 (話し手) の職業を知っているはず知人に、職業を尋ねてられた場面である。実際起こっている状況としては、「聞き手は職業を知らない」かのような状況であるが、話し手は「聞き手は職業を知っている」と想定している。

| | | |
|--------|---------------------------|----|
| 命題 | 聞き手 (あなた) は知らない | |
| 実際の状況 | 聞き手 (あなた) は知らない (かのような状況) | P |
| 話し手の想定 | 聞き手 (あなた) は知っている | -P |

(3) u yol yan-da başqa-lar-a yardım qili-sa
 3SG 道端-LOC 他人-PL-DAT 助け 求める-COND
 vol-mez mi?
 なる-NEG.PRS mi
 「彼は道端で助けを求めてはいけないのか？」

(資料2より)

(3)は、話し手自身が経験した出来事を他人の出来事のように客観的に振り返っている場面である。道端で助けを求めていたら車に轢かれたため、車の運転手になぜそうしたかを追及している。実際起きた状況は「道端で助けを求めてはいけない」かのような状況だが、話し手は暗に「道端で助けを求めてはいけないことはない」と示唆している。

| | | |
|--------|----------------------------|----|
| 命題 | 彼は道端で助けを求めてはいけない | |
| 実際の状況 | 彼は道端で助けを求めてはいけない (かのような状況) | P |
| 話し手の想定 | 彼は道端で助けを求めてはいけないわけではない | -P |

(4) seler sorma ič-di-r² mi?
 2PL お酒 飲む-PST.DIR-?? mi
 「あなたたちはお酒を飲みましたか？」

(資料2より)

(4)は、法廷の裁判中の場面である。聞き手は飲酒した事実を隠蔽していたものの、その確実な証拠を掴んだ話し手が聞き手を問い詰めている。

この文では、実際の状況も話し手の想定もいずれも「聞き手はお酒を飲んだ」となるもの

² サラール語で動詞語幹に接続して過去を表すのは-diであり、r音は分析できないため“??”とした。このrは、原(2019: 51)が指摘した「r音で終わるアスペクト標識が多いことによる類推」の影響に係る可能性がある。

の、聞き手が作り出した状況「自分 (聞き手) はお酒を飲んでいないことになっている」の想定外を突いた文であるといえる。したがって、〈話し手の想定〉の箇所を〈聞き手の想定〉として考えると、他の例と同様に分析できる。

| | | |
|--------|-------------------------------------|----|
| 命題 | 聞き手 (あなたたち) はお酒を飲んだ | |
| 実際の状況 | 聞き手 (あなたたち) はお酒を飲んだ | P |
| 聞き手の想定 | 聞き手 (あなたたち) はお酒を飲んでいない (と思われている) | ¬P |

(5) u gün sen var mi?
 その 日 2SG ある.DIR mi
 「その日あなたはいましたか？」

(資料2より)

(5)は、(4)に続く場面である。聞き手が隠蔽した事実を、話し手は「聞き手はその日いた」という確信を持って問い詰めている。(4)と同様に、聞き手が作り出した状況「自分 (聞き手) はその日いなかったことになっている」の想定外を突いた文と捉えることができ、〈聞き手の想定〉が〈実際の状況〉に反していると分析できる。

| | | |
|--------|----------------------------|----|
| 命題 | 聞き手 (あなた) はいた | |
| 実際の状況 | 聞き手 (あなた) はいた | P |
| 聞き手の想定 | 聞き手 (あなた) はいなかった (と思われている) | ¬P |

3.2. 映画資料による調査結果の総括

映画資料による調査に出てきた mi を含む 11 例は、次の表のように整理出来る。

表 1 : mi の 2 つの用法

| | 話し手の想定 | 聞き手の想定 | 実際の状況 | 用例数 |
|-------------|--------|--------|-------|------------|
| ①話し手の想定に反する | ¬P | | P | 9 例 / 11 例 |
| ②聞き手の想定に反する | | ¬P | P | 2 例 / 11 例 |

3.3. エリシテーション調査の結果

この用法が mi にのみ見られる用法であり、他の疑問標識と区別されることを検証するために、サラール語母語話者 2 名にエリシテーション調査を行った。インフォーマント情報は次の表のとおりである。なお、出身地はいずれも言語形成期に過ごした地域に等しい。

表2：インフォーマント情報

| | 生年 | 性別 | 出身地 |
|----|-------|----|-------------|
| A氏 | 1984年 | 男 | 青海省循化县查汗都斯乡 |
| B氏 | 1988年 | 男 | 青海省循化县清水乡 |

発表者が提示した次のサラール語文について、疑問標識をそれぞれ mo, mu, (r)u, (r)o, (r)i に変えてそれぞれの意味を尋ねた。

- (6) se va-ğur mi?
 2SG 行く-FUT mi
 「あなたは行くのですか？」

(発表者作例)

A氏によれば、mi を用いた文にのみ「聞き手と食事をするつもりでわざわざ家を訪ねたが、聞き手は今から他のところに行く聞いて予想外だ」という場面が想定されると答えた。

- (7) u rīben kiš idir mi?
 3SG 日本人 COP.DIR mi
 「彼は日本人ですか？」

(発表者作例)

B氏によれば、mi を用いた文のみ「彼が日本人であると知った上で驚いて聞き返している」という場面が想定されると答えていた。

いずれも<実際の状況>が P, <話し手の想定>が-P として現れたのは、mi を用いた文のみであったことから、mi が持つ『想定外』の用法は、他の疑問標識と区別される用法であることがいえる。

4. 考察

3.1 節と 3.2 節に示したように映画資料の調査により、次の 2 つの結果が得られた。

1 つめ、全データの 11 例中 9 例が<話し手の想定>と実際の状況が相反し、残りの 2 例は<聞き手の想定>が実際の状況と相反する。2 つめ、11 例中 11 例が、<実際の状況>が mi を除いた叙述部の命題内容に一致することから、mi は<実際の状況>に付けて用いる。

さらに、3.3 節のエリシテーション調査の結果から、mi を用いた際には確かに『想定外』を表しているのに対して、他の疑問標識を用いた場合には、『想定外』を表さないことから、

『想定外』のはたらきは **mi** の特徴的なものであると考えられる。

以上により、**mi** の用法を次のように結論づけることができる。**mi** は、「実際に発生した状況と、話し手または聞き手が想定していた事柄が相反する場合、実際に発生した状況を表す命題に付け加えることにより、『想定外』を示す」はたらきを持つ。

5. 今後の課題

本発表では、疑問標識 **mi** には『想定外』の用法があると結論づけた。それにより、次の課題が生じた。

1 つめ、**mi** を疑問標識と定義するのは適切であるかについて再検討する必要がある。本研究では先行研究に従って、疑問標識として扱ったものの、**mi** の用法が「実際に発生した状況を表す命題に付け加えることにより、『想定外』を示す」ことから、話し手は聞き手に対して答えを要求しているものではないことがわかる。

2 つめ、「聞き手の想定に反する」というはたらきの妥当性について疑問が残る。映画資料の中では、極めて限定的な状況に出現した(4),(5)の例により、その用法を指摘したものの、データが2例のみであることから、記述が十分であるとはいえない。このはたらきが確かにあることを裏付けるためにはより多くのデータを考察する必要がある。

今後はより多くの用例とともに、疑問標識のはたらきを考察し、サラール語の疑問および証拠性の体系を明らかにする必要がある。

略号一覧

| | | | | | |
|------|-----------|------|-----|----------|----|
| COND | condition | 条件 | NEG | negation | 否定 |
| DAT | dative | 与格 | PL | plural | 複数 |
| DIR | directive | 直接経験 | PRS | present | 現在 |
| FUT | future | 未来 | SG | singular | 単数 |
| LOC | locative | 位格 | | | |

参考文献

马伟 (2013) 《撒拉语形态结构》中国社会科学出版社。

原明海 (2019) ‘撒拉语是非疑问句 (r)u 与(r)o 的传据性’『思言: 東京外国語大学記述言語学論集』15: 49-57.